

# 杉戸高校ダンス部

## Club Policy

2023.3.24. Ver.4

本ポリシーは、3年生の引退にともなう代替わりと新入生受け入れ前の年度末の2回のタイミングで必ず見直されるものとし、改定は部として開催した正式なミーティングの場において、コーチやOG会から助言を受けた現役部員と顧問との合意によってなされるものとする。くわえて、本ポリシーは校内校外問わず、広く公開されるものとする。入部にあたっては、本ポリシーを十分に理解した上で、覚悟を決めた者のみに許可する。

### <組織情報>

所属: 埼玉県立杉戸高等学校生徒会 運動部

部訓: Represent SGT、文舞不岐、peace, unity, love, and having fun.

目的: 人格の完成

目標: 全国にストリートダンスを認めさせる、主体性の確立、ダンス技術の向上、文化的教養を高める

部則: 校則の遵守、成績の保持、指導の徹底

入部条件: 部活動を最優先にできる者、肖像権について部に一任できる者

ジャンル: Brandnew Oldschool HIPHOP

Oldschoolの時代からのストリートダンスの様々な知識・技術を習得し、自分たちなりに再解釈して活用することで新たな価値を生み出す。

### <指示系統>

部の意志決定者の優先順位は、<校長→顧問→部活動指導員→OGOBコーチ→幹部会・ミーティング→OG会→部員保護者→生徒会本部・他の教職員→部員個人→外部組織(他校顧問・ダンススクールなど)>の順とする。

# 目次・リンク

## 0. 前提として

・部活動とは

杉戸高校グランドデザインより

## 1. グラデュエーション・ポリシー

①特に「主体性」の確立

②高いダンス技術の修得

③高い文化的教養の修得

## 2. カリキュラム・ポリシー

①校則の遵守

②学習成績の向上

③指導の徹底

④目標とした大会成績の達成

⑤「作品を練習する」のではなく、「練習したことを作品にする」

⑥ダンサーの選抜

⑦部員の相互評価・顧問やコーチからの評価の公表

⑧バトル練習

⑨フィジカルトレーニング

⑩ミーティング

⑪PDCAサイクルの回転 マンダラチャート・ポートフォリオの蓄積

⑫公演の企画・実施

⑬合宿の実施

⑭他校との合同練習の実施

⑮社会的イベントへの貢献

## 3. アドミッション・ポリシー

①部活動を最優先にできる覚悟

②肖像権について部に一任すること

③できるかどうかではなく、やるかどうか

## 0. 前提として

### ・部活動とは

「自主的」: やるべきことに自ら取り組むこと

「主体的」: 何をやるべきかを自ら考えて行うこと

学習指導要領では、この2つの語は明確に使い分けられている。

ex)「主体的・対話的で深い学び」⇔「生徒の自主的、自発的な参加」

では、部活動はというと

「生徒の自主的、自発的な参加により行われる」(学習指導要領総則)とされている

⇒自主的にそれに参加するかどうかを判断するためには、「どのような活動であるか」(やるべきこととは何か)を生徒自身が理解する必要がある。

したがって、本校ダンス部ではこれまで、入部説明会を実施し部の活動目標や顧問の指導方針を明確に示した上で、自主的に参加したいかどうかを確認した上で生徒に入部を認めてきた。これについてより明確にするために、スクールポリシー同様に、本部の活動のポリシーを確認しておきたい。

また、部活動は杉戸高校の行う「教育活動の一環」として、教育課程との関連が図られるよう留意する必要がある

教育の目的＝人格の完成(教育基本法第1条)

### 杉戸高校グランドデザインより

【学校目標】一人ひとりの能力を確実に伸ばし、夢の実現を支援する学校

【教育重点目標】・進取の気概を持ち、社会に貢献できる人材を育成する

・総合的な知の習得を行う

【解説】

生徒一人ひとりが、将来所属する社会の中で、何らかの形で活躍できる場面のことを「夢」と定義する。生徒の夢を見つける過程を様々な学校活動を通じて支援するとともに、夢の実現の土台となる様々な知識・技能を総合的かつ主体的に学び、夢の実現へ自走し、自らの考えを発信できる生徒を育成する。

目標を達成するために、杉戸高校では5つの力の伸長を図る。

5つの力の育成

【主体性】自分が何をすべきか、自ら考え行動できる人間

【協調性】周りの仲間と協力して高めあうことができる人間

【発信力】自分の意見を周りに伝えることができる人間

【共感性】相手の意見や想いを受け止め共感できる人間

【継続力】最後まで粘り強く努力し続けることができる人間

したがって、部活動指導においても「人格の完成」という目的を果たすことを期して、5つの力の伸長を図り、生徒の夢の実現という目標達成に寄与することとする。

# 1. グラデュエーション・ポリシー

「5つの力」すべてにおいて資質の高い人材を育て、人格の高い人間を輩出する。部員が「夢」を自ら実現できる人間となるため、杉戸高校ダンス部では引退までに到達すべき目標を以下の通り策定する。

## ①特に「主体性」の確立(ダンスに向かう力・主体性等)

5つの力の向上のため、特に重点項目として「主体性」の確立を置く。他の4つを主体的に伸長するためである。また、その先に「学びの深化」の主体的な実現を期待する。自ら課題を発見し、自身の資質・能力の伸長を図りながら、他者と協働的に物事に取り組むことでよりよい課題解決を目指すことを志向し、高い目的のためにはときに自分が傷つく可能性をも積極的に引き受けながら、強い意志のもとで努力し続けるような高い人間性を有した人物を養成する。

## ②高いダンス技術の修得(知識・技能、思考・判断・表現力)

ダンス技術の巧拙の判断の基準は、種類やジャンルによって様々である。したがって、ダンスの多様性を理解するとともに、各ジャンルの特性を把握し、適切な美的価値観を共有することが求められる。杉戸高校ダンス部では、「ストリートダンス」の枠の中でダンス技術を高めていくことを目的とする。したがって、我々の考える「ダンス」とは演劇やマーチング、バレエなどで求められる技術や表現力・演出力が主だった要素ではなく、以下の要素からなる音楽性や価値観のことであると定義する。

- i 「黒さ」「ストリート感」「グルーヴ」「セッション」といったストリートダンスの特性を重視
- ii リズム(特に、ブラックミュージックの観点から)
- iii アイソレーション(関節の可動域の観点から)
- iv ヒット(筋肉の使い方の観点から)
- v ステップ・重心・体の軸(足のつき方、強靱な体幹とバランス感覚を養う観点から)

## ③高い文化的教養の修得(知識・技能、思考・判断・表現力)

- i ストリートカルチャー、特にHIPHOPカルチャーへの理解
- ii ダンスの持つ社会的価値への理解
- iii 音楽理論への理解
- iv ファッション感覚の共有
- v ダンサーとしての礼節の理解
- vi 総合的な知の習得の必要性への理解

## 2. カリキュラム・ポリシー

杉戸高校ダンス部では、以下のような取り組みを通じて、グラデュエーション・ポリシーで示した諸目標を達成するために活動・指導するものとする。

### ①校則の遵守

校則を徹底して守ることにとどまらず、その決まりの精神を慮り、内面化することで全校の模範となるような学校生活を送る。「他の生徒がやっているから」「現状でここまでは許容されているから」という無責任な理由で判断するのではなく、自分たちがどうありたいのかを実現するために、校則というひとつの基準をもとに考える。場合によっては、基準以上のこだわりを持つことが求められる。

### ②学習成績の向上

部訓である「文舞不岐」に則り、主体的な学習を通じて伸長される学力の3要素は、ダンスを行う上でも必須の資質・能力であることを理解し、徹底した学習習慣を身につける。万が一、成績面での不安が感じられた場合、顧問・コーチの判断のもと活動への参加を認めないものとする。

### ③指導の徹底

指導の徹底とは、指示されたことをただ自主的に表面上行うということではなく、顧問やコーチ、先輩からの指導の意図を主体的に考え、内面化することである。例をあげれば、「部活動を最優先にする」とはただ単に練習ばかりするというのではなく、日常生活のすべての場面で部活動が目的となる(=日常のすべてが「部活動のために」という目的での行動選択となる)ことを意味している。すなわち、自分が部活動を最優先にすることを実現するために、生活習慣や学習習慣を確立し、礼節を重んじ、応援してもらえようような人格として成長するように不断の努力を惜しまないことである。

### ④目標とした大会成績の達成

運動部として、目標とすべき大会選定とその目標設定を行い、技術向上や人間性の向上を図る。

R4年度現在、以下の2つを主要な大会として位置づけ、「全国にストリートダンスを認めさせる」を達成するべく活動している。時として、他の大会(ハイダン・DCCなど)やイベント(地域貢献・文化祭など)へ参加することも考えられるが、あくまでこの2つの大会のための小目標として位置づけられるものとする。したがって、スケジュールからみて効果が低い場合は出場・出演しない。チームダンス選手権全国大会出場者は、文化祭用の演目には出演しない(大会作品を除く)。あるいは、部の目標に則さない場合(高体連の創作ダンス関係・ダンススタジアムなど)は出場しない。

#### I. スポーツ庁後援 全日本高等学校チームダンス選手権大会

(主催:一般社団法人全日本高等学校ダンス連盟)

ストリートダンスの教養や技術を正當に評価するような審査基準や項目であり、かくある大会の中で最も本校ダンス部のポリシーに合致した美的価値観や文化性を有した大会であるといえる。したがって、習得した知識・技能の「活用」段階を試す場として最も上位に位置づけている。

## Ⅱ. スポーツ庁後援 全国高等学校ダンスドリル選手権大会

(主催: 特定非営利活動法人ミスダンスドリルインターナショナルジャパン)

HIPHOP部門が設けられたドリル競技の大会として採点の「競技性」が非常に強く、基礎的な技能の習熟度を客観的に測ることができる。また、全国大会よりもさらに上位の世界大会が設定されている。

また、3年生の引退はこの大会を基準に設定する。

○どちらの大会にも出場しない場合

⇒最短で6月までに何かの機会を設定して引退、オーディションに通らなかった場合、その時点で引退もありうる。

○チームダンスで全国大会出場できなかった場合

⇒最短で8月、チームダンスの関東予選で引退

○チームダンス選手権で全国大会出場が叶った場合

⇒最長で9月中旬のチームダンス(R4は北九州会場)で引退

※チーム編成いかんによっては、所属するチームごとに引退の時期が異なることもあり得る。世界大会進出の場合は特別に対応。

## ⑤「作品を練習する」のではなく、「練習したことを作品にする」

高いダンス技術を修得するため、活動の根幹は基礎基本的な技術修得のための反復練習や、身体機能の強化である。したがって、「作品作り」ではなく、それぞれの技術的な課題の分析や反復練習など、個人の資質・能力の向上に練習の主眼を置く活動を展開し、「個」が結実した結果が「作品となる」ことを目指す。具体的には、アイソレーションなどの基礎メニューのセットを技のカタログとし、十分に修得されたそれらを組み合わせて作品を構成するものとする。したがって、達成基準に達しなかった者のオーディション参加は認められない場合もある。

## ⑥ダンサーの選抜

オーディション、あるいは顧問・コーチの総合的な判断による出場ダンサーの選抜を行う。特に大会出場については、原則として馴れ合いでチームを編成することはしない。したがって、出場メンバーに選出されなかった者はダンサーのサポートの役割を担う。競争原理のもと、切磋琢磨し合うことでさらなる技術向上を目指す。なお、審査結果を明示する場合は、成績が下の者についても意味のない配慮は行わず、詳らかにするものとする。また、選抜については、部員のミーティングでの合意によるわけではなく、顧問・コーチあるいはコレオグラファーの責任のもとに行われる。

## ⑦部員の相互評価・顧問やコーチからの評価の公表

前項に関連して、到達度や個人の課題の分析のため、審査が行われる機会があった場合には、どれだけ点数に差が生じたとしてもその結果は明示されるものとする。「かわいそう」などという無意味な配慮は行わない。

## ⑧バトル練習

習得した基礎基本的な技術を、ストリートダンサーとして発展的に活用するための場として、ダンスバトルやセッションなどのフリーで踊る活動を奨励する。取り組みの態度や部内戦での成績も、大会出場者選抜の資料となり得る。

## ⑨フィジカルトレーニング

サーキットトレーニングや達成すべき数値目標を掲げた筋力トレーニング、外周走のタイムトライアルによる心肺機能の強化を通じて、身体機能の強化に取り組む。一定の基準に達しない場合には、オーディションの参加資格を得られない場合もある。

## ⑩ミーティング

主体的・対話的で深い学びの実現のため、哲学対話の手法を用いたミーティングに定期的に取り組む。その際、ドキュメントやJambordなどのファイルの共同編集を通じた協働的な学びによって、部全体の合意形成を図る。円滑な協議実現のために、事前にGoogleクラスルームを通じた「質問」への回答を求めることも考えられる。このミーティングは民主主義の原則に基づいて展開されるが、多数の暴政とならないように留意し、議論が尽くされることが期待される。その上で、必ずしも多数決を採用するわけではなく、最終的な決定権は顧問・コーチが持つものとする。また、このミーティングは顧問・コーチの指導を輔弼する機関であるが、公式に意見をまとめる必要があるときには、これを現役部員の最高の議決機関とし、幹部会はその執行機関とする。

## ⑪PDCAサイクルの回転 マンダラチャート・ポートフォリオの蓄積

杉高手帳の記入を徹底し、自身の生活を見える化し、毎日PDCAサイクルを通じて分析する。部員同士で相互に見せ合い、お互いにアドバイスし合うような取り組みも考えられる。したがって、いつでも誰にでも見せられるようなクオリティで記入していく。さらに、マンダラチャートの作成やポートフォリオの蓄積によって、課題発見能力や自己指導能力を培い、引退後も成長し続ける人間性を実現する。

## ⑫公演の企画・実施

自主公演、文化祭公演、地域イベント内での出演枠の公演など、企画立案から実施まで主体的に行う。ただし、大会への挑戦や身体作りなど、優先事項の高いものが別にある場合にはその限りではない。

### ⑬合宿の実施

顧問の判断のもと、個人の資質向上や部の組織力向上のため、合宿を実施する。原則、校外の設備が整った施設で、夏と冬に実施する。

### ⑭他校との合同練習の実施

他校との合同練習や練習試合を積極的に行い、外部との比較を通じて客観的に自分たちの立ち位置を確認する。大会での他校の顧問への挨拶や部員との交流も奨励する。

### ⑮社会的イベントへの貢献

地域とともにある学校で展開される部活動として、可能な限り地域社会への貢献を積極的に行い、後輩の憧れとなれるよう努力する。また、ストリートダンスの持つ社会への有用性を実感する。



### 3. アドミッション・ポリシー

カリキュラムポリシーで示した活動に自主的に取り組むことができるよう、杉戸高校ダンス部では以下のような資質や覚悟を持った生徒の加入を求める。

#### ①部活動を最優先にできる覚悟

・顧問・コーチの指導やこれまでの活動の意図を部員自らが主体的に考え、徹底することが求められる。3つのポリシーを理解した上で、引退まで自主的に取り組むことのできる者のみに入部を認めている。安易な退部は認められない。また、やむおえない事情により休部をした場合、年度の変わり目などに復帰の意向を顧問が確認する。したがって、部員たちが部活動に集中できるような生活習慣や学習習慣の定着は必須である。巷には、ダンススクールが乱立している。あえて部活動として取り組む意義を考えれば、それを最優先にすることは必須である。大会のコンセプトによって、髪型を変更する可能性を受け入れられる者に入部を認める。したがって、前髪を伸ばし続け、いつでも大会のコンセプトに合わせて髪型を変えられる準備ができる者に入部を認める

#### ②肖像権について部に一任すること

・ダンス部の活動の特性上、映像や写真が広くメディアに露出することが多い。したがって、部全体の活動の幅を担保するためにも個人の肖像権について部に一任できる者のみに入部を認めている。

#### ③できるかどうかではなく、やるかどうか

・高校生は自分を成長させるために学んでいる最中であるため、達成状況としてできるかどうかは、さして問題ではない。重要なのは、「できる」ように「やろうとするか」どうかである。自分の資質や能力の到達段階に鑑みれば、失敗する可能性が高い場面があることも考えられるが、それでも主体的に取り組まなければ成長はない。挑戦する勇氣とは、失敗して恥ずかしい思いをしたり、傷ついたりする可能性を自ら引き受けることである。